



京都府立
嵯峨野高校

課題研究

◎校是は「和敬、自強、飛翔」。大学進学後に必要な力の育成を目指して、1996年度に「京都こすもす科」を設置。2006年度に学力向上フロンティア事業の研究指定、12年度にSSHの指定を受け、国家や社会を担うリーダーとして、国際社会の平和と発展に寄与する人間の育成を目指す。

設立	1941 (昭和16)年
形態	全日制／普通科・京都こすもす科／共学
生徒数	1学年約340人
12年度入試合格実績(現浪計)	国公立大は、北海道大、東北大、東京大、京都大、大阪大、神戸大、九州大、京都府立医科大などに165人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ648人が合格。
住所	〒616-8226 京都府京都市右京区常盤盤ノ上町15
電話	075-871-0723
Web Site	http://www.kyoto-be.ne.jp/sagano-hs/

自ら課題を見つけて 研究を深める「ラボ」で 社会で生きる学力を育む

変革のステップ

背景

◎難関大合格にとどまらず、学びへの探究心を持ち、国際社会で活躍できるリーダーの育成を目指す

STEP 1

実践

◎課題研究を軸に、課題探究力や論理的思考力を育成。SSH指定を受け、不断の改革を進める

STEP 2

成果

◎学びに対する探究心や意欲が深まり、難関大の進学実績も向上。高い志望に挑戦する気概も生まれる

STEP 3

「京都こすもす科」の新設で 府下有数の公立進学校に

京都府立嵯峨野高校の「京都こすもす科」は、普通科目を基礎とし、それらを深く発展させた専門教育を行う専門学科だ。「大学の研究スタイルを高校教育に取り入れる」というコンセプトの下、1996年度に京都府の教育改革の一環として設置された。背景には、「公立高校の魅力をもっと高める起爆剤にしたい」という教育委員会の方針があった。当時、京都府の公立高校入試では総合選抜制度が採られていたが、京都こすもす科では、意欲と能力がより高い生徒を迎えるため、府下全域から募集が行われた。新学科設置を機に、教育内容は一新された。京都こすもす科は人文社会、国際文化、自然科学の3系統とし、課題研究や外部講師による講演会を中心とする探究活動をカリキュラムの軸とした。大学での学びに必要な課題探究力や研究手法を身に付けることを目的としている。一方、普通科はⅠ・Ⅱ類とし、Ⅰ類はいわゆる普通の公立高校のカリキュラム、Ⅱ類は京都こすもす科に準じたカリキュラムとした。

京都こすもす科は、1期生から顕著な進路実績を挙げた。例年20人程度だった国公立大合格者数は、1期生が卒業した99年度入試では100人を超え、府内公立高校トップの実績を挙げるまでに至った。浪人する卒業生は10%以

下となり、「現役合格を目指す進学校」という評価が、地域に定着していった。

「Sagano Dynamics」を掲げ 真の学力と難関大合格の両立へ

そうした中、専門学科新設という第一の改革に続く、第二の改革が2006年度に始まった。05年頃から生徒や保護者の難関大への関心が高まり、難関大をより意識した指導が求められるようになったのだ。小川雅史副校長はこう話す。



京都府立嵯峨野高校副校長
小川 雅史 おがわ・まさし

教職歴29年。同校に赴任して18年目。「常に人を育てることへの熱い情熱を持ち、一人ひとりの生徒を大切にしたい」



京都府立嵯峨野高校
玉村 岳 たまむら・たけし

教職歴27年。同校に赴任して13年目。進路指導部長。「学ぶとは誠を胸に刻むこと。教えるとは共に希望を語ること」



京都府立嵯峨野高校
河村 早苗 かわむら・さなえ

教職歴27年。同校に赴任して16年目。京都こすもす科長。教育推進部長。「一人ひとりの可能性を見つめて、力を伸ばしていきたい」



京都府立嵯峨野高校
林 博之 はやし・ひろゆき

教職歴20年。同校に赴任して6年目。研究開発部長。「高校生は失敗しても許されるもの。失敗を怖がらせず、質の高い経験を積ませたい」

「難関大の合格実績で高校の教育活動の評価をされるのは、厳然たる事実です。地域の期待に応えるために、更なる実績の向上を目指すのは必然的な流れでした」

難関大合格者を増やすといっても、これまで京都こすもす科が目指してきた「大学進学後を見据えた真の学力の育成」という方針が変わりはなかった。同校には、真の学力の育成と進学実績の向上は相反しないという確信がある。進路指導部長の玉村岳先生は次のように述べる。

「真の学力の育成と難関大合格というと、二兎を追うイメージがあるかもしれませんが、本校では相反しないと捉えています。基礎・基本の定着のためには反復学習なども必要ですが、一方的に知識を伝えるだけでは、生徒の学ぶ意欲にはつながりません。自ら課題を見つけて探究する力を身に付けることで、生徒は学びの深さ、面白さを感じます。もっと学びたいという意欲が芽生えれば、生徒は自ら学習に向かうようになり、結果的に難関大の合格にもつながると思います」

この時期に、生徒と教師の心を1つにするために打ち出されたのが、今も同校を貫く理念である「Sagano Dynamics」だ。京都こすもす科長の河村早苗先生は、次のように説明する。

「難関大合格にとどまらず、将来、国際社会で活躍できるリーダーや、最先端分野で未知の世界を切り拓いていく人材の育成が本校

の目標です。Sagano Dynamicsは、この実現のために、生徒と教職員が一体となり、家庭や地域をはじめ広く社会の教育力を有効に活用しながら、ダイナミックに教育活動を展開することによって、常に成長を続ける学校でありたいという思いの象徴だと思います」

この頃、同校の実績とビジョンが評価され、京都府教育委員会「学力向上フロンティア事業」の研究指定校にもなり、第二の改革は進められていった。

生徒の高い志望を最後まで支援する 進路指導に転換

まず行った取り組みは、カリキュラムの改編だ。東京大・京大入試を見据え、地歴の2科目対応が一目で分かるようにし、難関大入試に対応した補習も充実させた。

教師の意識改革も進めた。教師が同じ目線で指導に当たれるよう、①自ら学ぶ姿勢の育成、②難関大に挑戦する気概の育成、③大学の先にあるものを見据えた指導の3つのビジョンを掲げた。進路指導では、生徒に安易な道を選ばせず、高い目標を貫かせる方針を共有した。当時の校長が「現役合格の数字にはこだわらなくてもよい」と明言したが、それでもこれらの方針を教師が受け入れるには葛藤があった。研究開発部長の林博之先生は次のように語る。

「担任は生徒の可能性を最大限に広げたいと思う一方で、高校3年間の成果を形にさせたいとも思っています。より高い志望を諦めさせないという方針が打ち出された時は、生徒や保護者よりも、担任が最も不安を感じたと思います」

最後まで生徒を支える担任を、学校全体で最大限に支援した。小川副校長はこう話す。

「進研模試のデータなどを基にして進路検討会を行い、時には進路指導部長が保護者に説明するなど、学校全体で担任を支援する指導体制を整えています。育てたい生徒像を共有した上で、担任に負担を集中させず、チームとして指導していくことも、進学実績の向上を支える大切な要素です」

06年度まで1桁だった京都大合格者は次年度以降10人以上で推移。志望を貫いて難関大合格を果たす生徒の増加に伴い、学校の方針は教師の間に浸透し、教師も自信を深めていった。

自ら研究テーマを決め 研究に必要なことも自分で探す

そして、第三の改革は、学力向上フロンティア事業の指定が終わった2年後、12年度にSSHの指定を受けたことよって始まる。

大学の研究や社会が必要となる力をより意識し、文理どちらの生徒にも科学的な素養を身に

付けさせ、グローバル化社会で発揮できるリーダーシップを育成することを重視した教育内容とした。「サイエンス英語」「ロジカルサイエンス」などの科目を設け、英語力や論理的思考力を育成。大学との連携事業、体験を重視したフールドワーク、英語集中合宿、各種のコンテストへの参加など、学びの場を広げている。

中でも中心となるのが「ラボ」だ(図)。人文社会・国際文化系統では「アカデミックラボ」、自然科学系統では「スーパーサイエンスラボ」といい、実験やフィールドワーク、課題研究などを通してテーマを深め、課題探究力を育成することを狙いとしている。

アカデミックラボは、1年生の専門科目だ。人文社会系統には文化学ラボ、法学ラボ、国際文化系統には英語学ラボ、異文化研究ラボなどがあり、関心に応じて1つを選ぶ。週1コマで研究を行い、レポートや論文に成果をまとめる。例えば、文化学ラボでは、祇園祭について研究。祇園祭山鉾保存会に祭りの歴史や伝統継承の意義を取材したり、着物の専門家に着付けや立ち居振る舞いを学んだりした。11年度まで同ラボを担当した河村先生は次のように説明する。

「このラボは、外国人に日本文化の底流を語れる力の育成を目標に掲げ、後半は生徒自身がテーマを決めて研究します。課題探究力の育成だけでなく、京都という地域の特性を生かした学びを通して、国際社会に発信でき

る力を身に付けることも目的です。郷土の伝統への見識がグローバル化社会には必要な教養であると、生徒が実感する場にはしています」

高校時代こそ 初めての体験に挑戦させたい

スーパーサイエンスラボでは、週2コマ、少人数で自然科学分野の研究を行う。1年生2学期までは、生徒全員が共通の「基礎ラボ」に所属し、数学、物理、化学、生物の探究活動に必要なスキルを習得する。1年生後半には、ラボを大まかに分類した「ラボ群」に所属し、専門的な研究・実験手法を学び、2年生からラボに所属する。次第に探究型の学びを深めていき、3年生では生徒は個々に研究を行い、成果は論文にまとめ、発表する。

生徒が最も成長を見せるのは、数々の研究発表の場だ(写真)。2年生後半からは、校内発表会やポスターセッションを開いたり、大学主催の研究会や学会に参加したりする機会がある。生徒は発表に向けて準備をする過程で、大学教員や外部講師などから厳しい意見をもらい、自身の研究の未熟さ、発表のつたなさを自覚すると共に、挫折をバネに研究を深めていく。

「生徒は、ワークショップや発表会など初めての経験ばかりで不安に陥ります。しかし、初体験への不安は、社会に出ればもっと増え



写真 30テーマにも及ぶスーパーサイエンスラボの発表会は、2年生の2学期に、1年生の他、保護者や大学関係者、地元中学校の教師などの学外の人も招いて行う。ポスターセッションでは、生徒は来場者から発表内容に対する意見を直接聞けるため、研究を更に深めるよいきっかけにもなる

図 2012年度 開講したラボのテーマ名

アカデミックラボ

- | | |
|--|--|
| <p>【人文社会系統】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国語国文学 ● 文化学 ● 歴史学 ● 法学 ● 経済学 | <p>【国際文化系統】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 英語学I(統語論) ● 英語学II(音韻論) ● 英米文学 ● 異文化研究 ● 国際社会 |
|--|--|

スーパーサイエンスラボ(ラボ群)

- 物理・工学群
- 生命・生物群
- 数理・解析群
- 科学・材料群
- 水圏・環境群

ラボは、学問分野に応じて該当する教科の教師が1~2人で受け持つ。ラボの内容や外部講師については、生徒の要望、担当教師の専門性や人脈などに応じて年ごとに変わることも多い
*学校資料を基に編集部で作成

時代の变化に応じて
変わり続けたい

ていきます。だからこそ、高校時代にさまざまな体験が出来る場を設けて、新しいことに挑戦し続ける意欲と態度を身に付けさせたいと考えています」(林先生)

スーパーサイエンスラボでは、家庭科の教師が食品化学ラボを、芸術科の教師が染色科学ラボを受け持つなど、理系以外の教師が積極的にかかわるのも特徴の1つだ。教科の枠を超えて学びを広げ、深めてほしいという思いがある。

京都こすもす科の取り組みは、普通科にも波及させている。普通科II類では、京都こすもす科の大半の専門科目(ラボを除く)を履修でき、ロジカルサイエンスなどの共通科目も設置されている。ラボを担当する教師が講演やフィールドワークなどを通して得た最新の知識は、普通科I類の授業にも還元している。学校全体でSSHの指定を受け、育てたい生徒像は同じという意識が、学校に一体感をもたらしめている。

実践により、例えば、1つの発表を終えると、直ちに次の課題を見いだそうとする生徒の姿が見られるようになった。「学問への関心が高まった」「大学選択につながった」などの声も増えた。難関大に果敢に挑戦する生徒も目立つようになったという。しかし、同校の改革は終わらない。

「時代の要請に応じて『変わり続ける』ことが求められており、それを続けてきたのが本校の最大の特長だと思います。これは、無理に新たなものを増やすことではありません。本校は、教職員数が特別に多いわけではありません。そのため、それまでの個々の教育実践を学校全体のものにしていくことが大切です。試みたものがうまくいかなかった場合には取り組みをやめるなど、急激な改革にしないことも意識しています」(玉村先生)

今後の課題は、論理的な思考を伴う言語力の育成だ。自らの考えを伝えるにとどまらず、他人の発表内容を論理的に捉えて疑問を投げ掛けられる力などを育みたいと考えている。そのためにも、教師全体の指導力向上を強く意識する。12年度には、全教師でクリティカル・シンキング(*)を取り入れた授業の研修を受けるなど、新たな挑戦が始まっている。

「今まで以上に授業研究、教材研究を行い、自らの指導力を磨いていかなければいけません。特に若手の先生には、今後ますます浸透するであろうICTを活用した指導力を身に付けてほしいと思います。また、これまで培ってきたノウハウを若手教師に継承する体制を整えることも必要です。若手の育成による新しい発想の創造とノウハウの継承が、これからの嵯峨野高校の発展を支える土台になると考えています」(小川副校長)

今回のテーマに関連する過去の記事はBenesse教育研究開発センターのウェブサイトでご覧いただけます。

2012年8月号指導変革の軌跡「茨城県・私立清真学園高校・中学校」など
▶▶▶ <http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ(高校向け)